ハビタット福岡市民の会　ニュースレター　　発行 ２０１２年4月１９日

Citizens Net for UN Habitat Fukuoka
ハビタット福岡市民の会

３５号の主な内容

■ハビタット福岡市民の会総会
■ラオススタディツアー報告会
■ハビタットひろば（２月、４月）
■職員紹介（深澤良信さん）■イベント案内
■今後のスケジュール
■事務局からのお願いとお知らせ

第35号
http://cnhf.npgo.jp

■ハビタット福岡市民の会総会

２０１２年2月１６日（木）アクロス福岡のグランチャイナにて、ハビタット福岡市民の会の総会及び交流会を開催しました。

総会では、第１号議案の２０１１年度の活動報告と会計報告を行ない、第２号議案の２０１２年度活動計画、第３号議案の運営委員が承認されました。

○２011 年会計報告

＜収入の部＞

前期繰越し	１５２，９４４円
会費収入	５２，０００円
支援金他	２９，１６０円
収入合計	２３４，１０４円

＜支出の部＞

ニュースレター印刷費	３６，０００円
ＦＵＫＵＮＥＴ年会費	２，５００円
切手代	２，０００円
郵便振替手数料他	９，６５５円
支出合計	５０，１５５円
＜次期繰越し＞	１８３，９４９円

○２０１２年活動計画

定例会を毎月原則として第３木曜日に実施
ニュースレターを4月、８月、１２月に発行
日本ハビタット協会主催「あの日のこと」に協力
ハートフルフェスタに出展（１０月）
地球市民どんたくに出展（１１月）
国連ハビタット福岡本部の行事への参加
国連ハビタット福岡本部との交流会の実施
などを計画。
詳細は、４ページの今後のスケジュールをご覧下さい。

○２０１２年の運営組織

代　表	牟田慎一郎（日本ハビタット協会福岡支部長）
副代表	佐竹芳郎
事務局長	諸藤恵子
会　計	山前隆
監　事	島祐二郎
ＨＰ担当	橋詰順一郎
イベント担当	早川方樹、中川雅文
運営委員	山口明巳、清水明美　ほか若干名

交流会では、昨年度の活動を振り返りながら、ラオスのスタディツアーが大変好評だったため、今度はナイロビや他の地へ行ってみたいなどの意見が出されました。

５月に開催される東日本大震災の早期復興を願うイベント「あの日のこと」の具体的な内容について話し合いました。新年度から新しく加わったメンバーの方々と共に、充実した活動内容になるためにはどのようにしたらよいかについて語り合いました。　（諸藤）

■ラオススタディツアー報告会

３月１４日に、福岡市 NPO ボランティア交流センター「あすみん」セミナー室にて、昨年１１月に行われたラオススタディツアーの報告会を開催しました。スタディツアー参加者を代表して、３名が報告しました。

牟田慎一郎「ラオス全般について」
諸藤恵子「ルアンパバンについて」
清水明美「水道事業について」

スタディツアーに参加した私たちは、出席した方々に報告することで、ラオスの現状、支援の大切さ、ラオスの魅力などについて、再認識しました。初めてラオスのお話を聞く方も、日本ハビタット協会の支援事業である安全な水供給や学校の衛生環境整備について、少しでもイメージが湧き、発展途上国への支援が身近なものに感じられたのではないでしょうか。

報告会後は、ラオスからの留学生のササさんを交え、参加者の方々と懇談をして自由に意見を交わしました。その中で、ラオスという国が「観光地化されていない癒しの国」であること、「物乞いやストリートチルドレンがいない共生の社会」であることに私自身、改めて気づかされました。この報告会で、参加者もまたラオスについて考え、出席された方々にもラオスの魅力、ハビタットの支援事業について知っていただけるきっかけとなりました。　（清水）

■ハビタットひろば

福岡国際交流センターでは、アクロス福岡 3F の「こくさいひろば」で、偶数月に国連ハビタット福岡本部との合同レクチャーシリーズ「ハビタットひろば」を開催しています。

参加した市民の会メンバーからの報告です。

■第６回「モンゴルでの活動」

2012 年２月１日（水）18:30～19:30 にアクロス福岡３階でハビタットひろばが開催されました。

国連ハビタット福岡本部の人間居住専門官ブルーノ・デルコンさんが国連ハビタット福岡本部のモンゴルでのプロジェクトと成果について講演しました。

モンゴルは、面積が日本の４倍、人口は 275 万人と日本の 46 分の１ほどで、人口密度が低い所です。首都のウランバートルが唯一の都市で、人口の約半分がウランバートルに住んでいます。

冬は－４０℃になり、５年～１０年に１回は寒波が来るため、放牧生活をやめる人もでてきています。そして、ゲル（テント）を持ってウランバートルにやって来て都市近郊に住み着きます（ゲル地区と呼ぶ）。ウランバートルの人口の 65%がゲル地区に住んでいます。ゲル地区は、スラム化しており、仕事がなく、健康に悪い住環

境になっています。

国連ハビタット福岡本部は、日本政府より 100%の支援を受けて、2009 年～2012 年にコミュニティ主体のゲル地区住環境改善事業を、都市近郊周辺 5 地区で実施しています。この地区は、道路があまりなく、水の入手が困難で、下水溝、トイレも少なく衛生の問題も深刻です。

スラム改善事業として、多くのコミュニティ施設を住民参加型の事業プロセスで建設しています。52 のコミュニティグループを支援しています。

①民が集まり、協議会を作り、問題点を話し合い、選挙でリーダーを選び、組織化します。
②組織化したコミュニティ自身が行動計画を作ります。
③コミュニティに事業の実施を委託することで雇用機会を作り、コミュニティが建設作業をします。

この間、国連ハビタットは、専門家として助言をし、手助けをします。施設の例としては、学校、保育園、子どもの遊び場、診療所、給水所、衛生的な洗面所、排水溝、歩道、階段、バス停などを建設しています。国連ハビタットは全ての施設を今年引き渡します。今は、維持管理のトレーニングをコミュニティにしているところです。都市を住み易くするために、国連ハビタットの活動が大きな成果を上げていることがよく分かりました。有意義な講演会でした。

■第７回「ラオスでの活動」

2012 年４月３日（火）18:30～19:30 にアクロス福岡３階でハビタットひろばが開催されました。

ローウィ・ロザレスさん

国連ハビタット福岡本部の人間居住専門官ローウィ・ロザレスさんがラオスの直面している課題と国連ハビタットの活動について講演しました。

ラオスの特徴は、５カ国に面し、海はないがメコン川が縦断しています。宗教は仏教で、政治は共産主義一党独裁、経済は世界最貧国の１つ（国民１人当たりの GNP が約 1,000US ドル）ですが、治安が良く、現在、年率７％で経済成長しています。

ラオスの課題は、①資源開発、②台風の被害の復興、③地雷撤去、④インフラ整備等です。国連ハビタットの活動として取り組んでいるのは、安全な水と衛生設備の提供を行っており、コミュニティレベルで活動をして貰う方法をとっています。

緊急対応としては、①2008 年８月のメコン流域洪水（20 万人罹災）と②2009 年９月のケッツアーナ台風（17 万人罹災）に対して、水道や井戸被害対策、緊急時住居提供に取り組んでいます。

また、ハビタット福岡市民の会による 2011 年 11

月のラオススタディーツアー報告を諸藤恵子さんが行いました。

全国の小学校で、給水設備のある小学校は 37%、給水設備と衛生設備（トイレ）の両方ある小学校は 24%と遅れています。

ラオスの北部にある古都ルアンパバーン近郊で、国連ハビタットが取り組んでいるプロジェクトである①山の水源を使った貯水施設、②2 つの小中学校併設校の衛生設備を見学しました。特に 1151 人の学校では、トイレの数は 11 機（浄化槽で汚水処理をしている）と増やしたが、まだ不足しているとのことです。

国連ハビタットの活動状況がよく分かり、有意義な講演会でした。

（佐竹）

■職員紹介・・・深澤良信さん

４月９日（月）国連ハビタット福岡本部を訪れ、新しく入所された深澤良信さん（上級人間居住専門官）へインタビューを行いました。

○ご出身とプロフィールをお聞かせください。

静岡県浜松市出身で、東京の大学で土木工学（学士）と社会工学（修士）を学んだあと、国土庁に入省しました。役所では国土計画や土地政策の策定、災害対策、港湾開発などの経験を積み、20 代の終わりの３年間、実はハビタットのナイロビ本部に出向したことがあります。また、ジュネーブの国連人道問題調整事務所（OCHA）に出向した際は、災害後の緊急人道支援に携わり、現地のニーズを取りまとめて国際社会に発信する調整業務を行っていました。その後も阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」の副センター長や総務省消防庁での消防関係の国際協力業務などに従事してきました。

○幅広いさまざまなご経歴のなかで一番印象に残っていることは何ですか？

どの仕事も充実していてやりがいを感じていましたが、エピソードということでいえば、ジュネーブ時代のイエメン出張時に、車ごと強盗され監禁されたことがあります。交渉の末、半日後に釈放されたのですが、以後、よりいっそう徹底した情報収集を心がけるようになりましたね。

○国連ハビタットに再度ご縁があった形での着任ですね。

ナイロビ本部時代に、専門性で成り立つ国連での仕事が自分に向いていると自覚し、ハビタットは私にとっての原点だったので、今回は古巣に戻ってきたという思いでいます。地域開発や防災などまでさまざまな経験を活かしていきたいと思っています。

○福岡での生活はどうですか？

福岡はとても住みやすく食べ物がおいしいですね。街のサイズもちょうどよく、コンパクトに楽しめます。家族は東京に住んでおり福岡には単身赴任なのですが、休みの日にはビールを飲みながらパスタを作るなどリラックスして過ごしています。

○国連ハビタット福岡事務所ではどのようなお仕事を担当されていますか？

モンゴルにおける「ゲル地区」生活改善プロジェクトを担当しています。モンゴルでは近年、遊牧から都市生活へと移行が進み、人々は水道や道路などの基礎的なインフラが整っていない都市の郊外に「ゲル地区」を形成して移住しているのです。もともと遊牧を営んでいた人々にはあまりコミュニティ意識がなかったところ、ハビタットの事業を通して自立的にマネジメントしていく過程で、その意識も高まってきました。今後はスリランカも担当することになっています。

○担当されているプロジェクトでの課題があれば教えてください。

ハビタットの事業はパイロット事業として現地政府に引き継ぐものなので、いかにして人々の自立的な意識を高め、コミュニティの力を引き出していくか、プロジェクトの組み立て方を含め課題だと感じています。問題も解決策も現地に転がっていますので、なるべく現地に赴きたいと思っています。

○最後に今後の抱負をお願いします。

現地でのプロジェクトが終了した後も、そこで培われたノウハウを活用して事業を自立的に他の地域にも拡大し続けていってもらうために、自治体の職員を巻き込む場を設定するなど、コミュニティだけでなく政府の能力開発にも力を入れていきたいと考えています。また、他の国際機関に比べると小さい組織ではありますが、プロジェクトレベルのみならず、都市問題全体のなかで解決策を考える政策レベルでの活動をしていければと思います。大変ですが楽しい仕事なので全うしたいです。

お忙しいなか丁寧に答えてくださった深澤さん、本当にありがとうございました。（井上）

大坪　井上　深澤良信さん　佐竹

■イベント「あの日のこと」のご案内

写真が伝えるものがたり　「あの日のこと」
５月 13 日（日）14:00～16:00

昨年の３月 11 日の東日本大震災の早期復興を願うイベント（詳しくは、同封のチラシをご覧ください）
会場：エルガーラ大ホール（中央区天神）
主催：日本ハビタット協会　**協力：ハビタット福岡市民の会**
入場料：1000 円（全額を東日本大震災復興支援に活用）

第１部は、大地震と津波で被災した方たちが生きぬいた具体的経験と、そこから得られた人を想う気持ちと未来を信じて生きることの大切さを元宝塚歌劇団トップ娘役スターで現在俳優のこだま愛さんの朗読でお伝えします。チェロとフルートの演奏をまじえつつ、仙台出身の国際的に高名な写真家高橋邦典氏が撮影した被災地の写真をスクリーンに映写します。

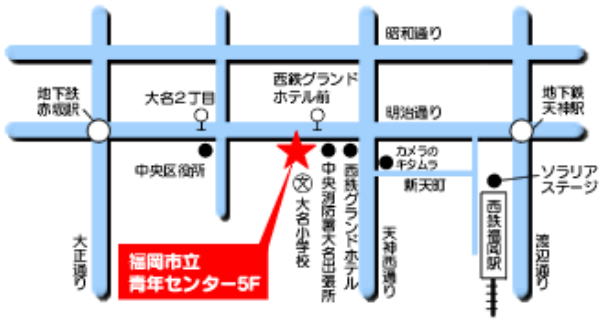
第２部は、マリ・クリスティーヌ　国連ハビタット親善大使と元福岡県知事麻生渡氏および被災者とのトークセッションです。皆様はもとより、ご家族・お友達にも広くＰＲ頂き、多くの方々にご来場頂きますようお願い申し上げます。当日券もあります。

ハビタット福岡市民の会は、ボランティアスタッフとして、チケット販売および当日の運営に協力します。

■今後のスケジュール

2012 年
5月１３日（日）14:00～16:00
　写真が伝えるものがたり「あの日のこと」
　エルガーラ大ホール（中央区天神）
　ハビタット福岡市民の会のメンバーは、ボランティア協力します。ボランティア希望の方は、右下欄のお問い合わせ先へメールまたは電話でご連絡ください。
　ボランティア参加は入場無料です。
　チケットご希望の方も同様にご一報ください。当日券も用意されています。
５月１７日（木）19:00～21:00　定例会
６月 21 日（木）19:00～21:00　定例会
７月 19 日（木）19:00～21:00　定例会
８月 16 日（木）19:00～21:00　定例会
　　ニュースレター36 号発行
９月 20 日（木）19:00～21:00　定例会
10 月 14 日（日）ハートフルフェスタ出展
10 月 18 日（木）19:00～21:00　定例会
11 月 10 日（土）～11 日（日）地球市民どんたく出展
11 月 15 日（木）19:00～21:00　定例会
12 月８日（木）19:00～21:00　定例会
　　ニュースレター37 号発行
12 月 15 日（木）国連ハビタット福岡本部との交流会

☆上記日程は、変更になることもあります。
　直前に、ホームページでご確認ください。
定例会の会場は、原則として福岡市 NPO ボランティア交流センター「あすみん」（下図）で行います。定例会後、希望者による食事会も行っています。参加お待ちしております。



メンバーの早川方樹さんが世界一周の旅

早川さん（九州大学大学院）は、さる２月７日から３月 25 日まで 48 日間で世界一周を実現。そこで得たものを Cosmopolitans Seminar で報告の予定です。
日時：４月 27 日（金）19:00～21:00
場所：川端中央商店街振興組合事務所（上川端町 9-178）
　　http://cosmo.npgo.jp/place.pdf
参加費：500 円（申し込み不要です）

編集後記

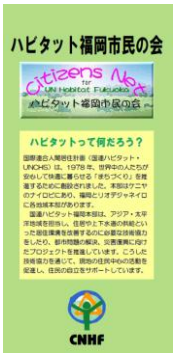
庭の藤の花が咲き始めました。ゴールデンウィークあたりに満開になることでしょう。東日本大震災から１年あまりが過ぎ、ようやく消費が上向き加減になったようです。景気回復のためには、私たち一人一人が活動的になることです。外に出かけイベントに参加したり、旅行したりすることが日本を元気にする一番の特効薬です。今から一年で一番いい季節になります。いろんなところに出かけいろんな人に出会い、人生を楽しみましょう。　（牟田）

■事務局からのお願いとお知らせ

●2012 年度年会費の納入のお願い
年会費　2000 円　（学生：1000 円）
会費・支援金の納入は、郵便振替用紙でお願いします。
　郵便振替口座　０１７３０－０－７８４３４
　加入者名義　　ハビタット福岡市民の会
会報の発行や運営は、みなさんの会費で成り立っております。ご協力をよろしくお願いします。

●会員およびボランティアスタッフ募集
　ハビタット福岡市民の会の活動の企画・運営に携わっていただく、ボランティア（運営委員や会員）を募集しております。（定例会などへの飛び入り参加歓迎）
　国連ハビタットの活動に興味をお持ちの方、大学生など若い方々の積極的な参加をお待ちしております。
　下記お問い合わせ先へ気軽にご連絡ください。

●リーフレットのご利用を！
　ハビタット福岡市民の会の会員やスタッフの勧誘、国連ハビタットの活動紹介などにご活用ください。
　当リーフレットは、イムズ 8F「レインボープラザ」、大名の福岡市 NPO ボランティアセンター「あすみん」、アクロス福岡 3F「こくさいひろば」にも置いています。郵送も承ります。必要部数を下記お問い合わせ先へご連絡ください。



●東日本大震災復興支援募金
1000 円以上のご寄附をいただくとご希望のＴシャツを差し上げます。種類（A,B,C）、サイズ（S,M,L）、希望数を下記お問い合わせ先へお知らせください。

スーイさんの招聘を計画

昨年 11 月に市民の会のスタディツアーでラオスを訪問した際に、国連ハビタットラオス事務所の Ms. Vilaysouk Ounvongsai（Soui）さんは、私たちにほぼ一週間アテンドしていただき大変お世話になりました。参加者の間から５月中旬ころ福岡に招待しようとの提案が持ち上がりました。実現できたら、是非みなさん方にホームステイなどのご協力をお願いします。

事務局・お問い合わせは

郵便物のあて先は：
〒810-0041　福岡市中央区大名２－６－４６
福岡市 NPO ボランティア交流センターあすみん連絡ボックス２号
お問い合わせは：
TEL　090-6770-2481（牟田）
FAX　0942-41-2080
E-mail　muta@ktarn.or.jp
HomePage　http://cnhf.npgo.jp

■ラオススタディツアー特集（その２）

■ラオスを訪ねて　　佐竹芳郎

２０１１年１１月２３日～２７日国連ハビタットのプロジェクト見学でラオスに行ってきました。

ラオス北部の古都ルアンパバーン近郊の小学校中学校の併設校で衛生事業としてトイレの設置事業を見学しました。トイレは紙でなく水で拭いており、浄化槽を３個連ねて処理をしていました。トイレの数は少ないが衛生的でした。

子供達はかわいらしく、校庭でダンスの練習をしたりして活発に動いていました。世界最貧国の１つと言われてますが、身なりもよく、そんな感じはありませんでした。集会室、図書館が今後欲しいとのことでした。

ラオスの印象は、人々は優しく穏やかで、治安もよく、緑にあふれた美しい国でした。共産党一党独裁の国ですが、後進国では珍しく政府機関が信じられる機関です。

古都ルアンパバーンは街全体が世界遺産になっていて、欧米からの観光客に人気があり沢山の人が来て賑わっていました。美しい仏教の寺が多く、寺には仏像が沢山祀られていました。

早朝に、托鉢をしている僧に食べ物を捧げに行きましたが、観光客に僧に捧げる食べ物を争って売る女性の人も多くいました。少年の僧から年寄りの僧まで、沢山の僧が列をなして托鉢をしており壮観でした。貰った食品を貧しい街の少年にあげているのも見かけました。仏教が人々の生活に生きづいているのを感じました。

夜の市場ではショール、マフラー、提灯などを買いましたが、夜遅くまで大変賑わっており、治安も良いので怖くなかった。朝の市場にも行きましたが、野菜、肉、魚、カエルなど沢山の珍しい食糧品が溢れんばかりに売られていて活気がありました。

ラオスは今経済発展の途上にあり、道路などのインフラ整備、メコン川の活用、鉱物資源の開発などが進めばどんどん豊かな国になって行くと思われます。また、是非訪問したい国となりました。

■ラオススタディツアー2011 に参加して　　濱﨑裕子

ハビタットの活動実態を知りたいという思いは以前からもっており、今回のラオスでのプロジェクトが学校の給水・衛生設備建設であること、世界遺産のルアンプラバンも訪れることができることから参加することにした。

ビエンチャンのハビタット事務所では８人のメンバーを紹介され、それぞれがナイロビ、イタリア、フィンランドなど多様な国の人が働いていることも印象的でした。

今回の給水・衛星設備建設プロジェクトの特徴的なコンセプトは「住民参加で工事を行うこと」、具体的にはハビタットが資金提供して一方的に整備するのではなく、住民が衛生的な生活を送ることの意義を理解し、そのための設備である給水パイプを埋める穴の掘削に自らが汗を流して皆で自分達の住環境をよくしていくということです。

さらに女性や子どもも含むコミュニティ全体が参加すること、そして、その地域選択にはハビタットの理念である貧困地域の優先という方針が活かされています。さらに持続可能な環境開発というグローバルに重要視されている理念が活かされており、大いに学ぶものがありました。

ハビタットは途上国に必要な技術を地道に教えていると、ラオスに水車建設の技術を教えに行っている人からお聞きしていて、住民がその後の生活改善も自分達で継続的に図れるように活動していることに感銘していた。そして私たちが訪問したビエンチャンのハビタット事務所で、今回のプロジェクトは住民参加で工事を行っていること、それにより住民が上下水の整備した衛生的な生活ができる喜びを実感するとともに維持管理も上手くいくことを聞いて、そのコンセプトの素晴らしさにさらに感動した。ハビタットの活動は、その理念にもとづき着実に進められていることが、今回実際に参加してみて初めて分かりよかったと思う。

またルアンプラバンにもっと長く滞在したかったという思いがあるが、これは今後個人的に再訪することでラオスという国をもっと身近なものにしていきたい。牟田さんや現地を案内して下さった方々に感謝するとともに、福岡市民の会の皆さまと知り合いになれたことをとてもうれしく思っている。